

周堤ってなんだろう

周堤とは、周溝のさらに外側に設けられた土手のことです。規模の大きな古墳で比較的多く認められる施設であり、世界遺産である大阪府古市・百舌鳥古墳群でも多くみられます。

今回の調査では周堤そのものを確認したわけではありませんが、周堤側から流れ込んだとみられる円筒埴輪が複数出土しています。このことから、当古墳には周堤が存在し、そこに円筒埴輪を立て並べていた可能性が極めて高いものと考えられます。近畿地方で大型前方後円墳を築造していた勢力との強い関係性が想定できます。



周堤をもつ古墳の断面模式図

当古墳の意義

ここまで見てきたように、八幡鹿島山古墳は5世紀中ごろにつくられた規模40mほどの大型方墳です。なぜ、この場所にこのような古墳がつけられたのか、当時の周辺地形や景観をもとに考えてみましょう。

現在は熊野から出雲郷を通り中海へ注ぐ意宇川ですが、古代には大きく蛇行し、当古墳の目前から安国寺の北側へと流れ込んでいたと想定されています。つまり、当古墳は東に意宇川の河口と中海、南西に意宇平野を望む位置に築造されたことがわかります。

こうしたことから、当古墳は東からの水上交通と南西の平野部という広い範囲からの眺望を意識してつくられたと考えることができます。

このような立地の良さや墳丘規模などから、出雲東部の大橋川南岸地域における有力者の墓と考えられ、当地域における古墳時代像を考えるうえで極めて重要な遺跡といえます。



松江市末次町 86 番地 松江市役所 文化スポーツ部 埋蔵文化財調査課
TEL 0852-55-5293 FAX 0852-55-5571

八幡鹿島山古墳発掘調査 現地説明会

日時 令和6(2024)年8月3日(土) 10:00～
松江市 埋蔵文化財調査課



遺跡の概要

八幡鹿島山古墳は、令和5年3月に竹矢公民館建替工事計画に先立って実施した試掘調査で発見されました。

今回、古墳の形や大きさ、築造時期などの内容を確認するために、調査区を3箇所設定して6月より発掘調査を行いました。

その結果、各調査区で葺石や周溝などの遺構や、埴輪・須恵器などの遺物が確認されるなど、貴重な成果をあげることができました。



第3 調査区

この調査区では墳丘北側の墳丘葺石と周溝、周堤葺石を検出しました。遺物としては、円筒埴輪や須恵器が出土しています。

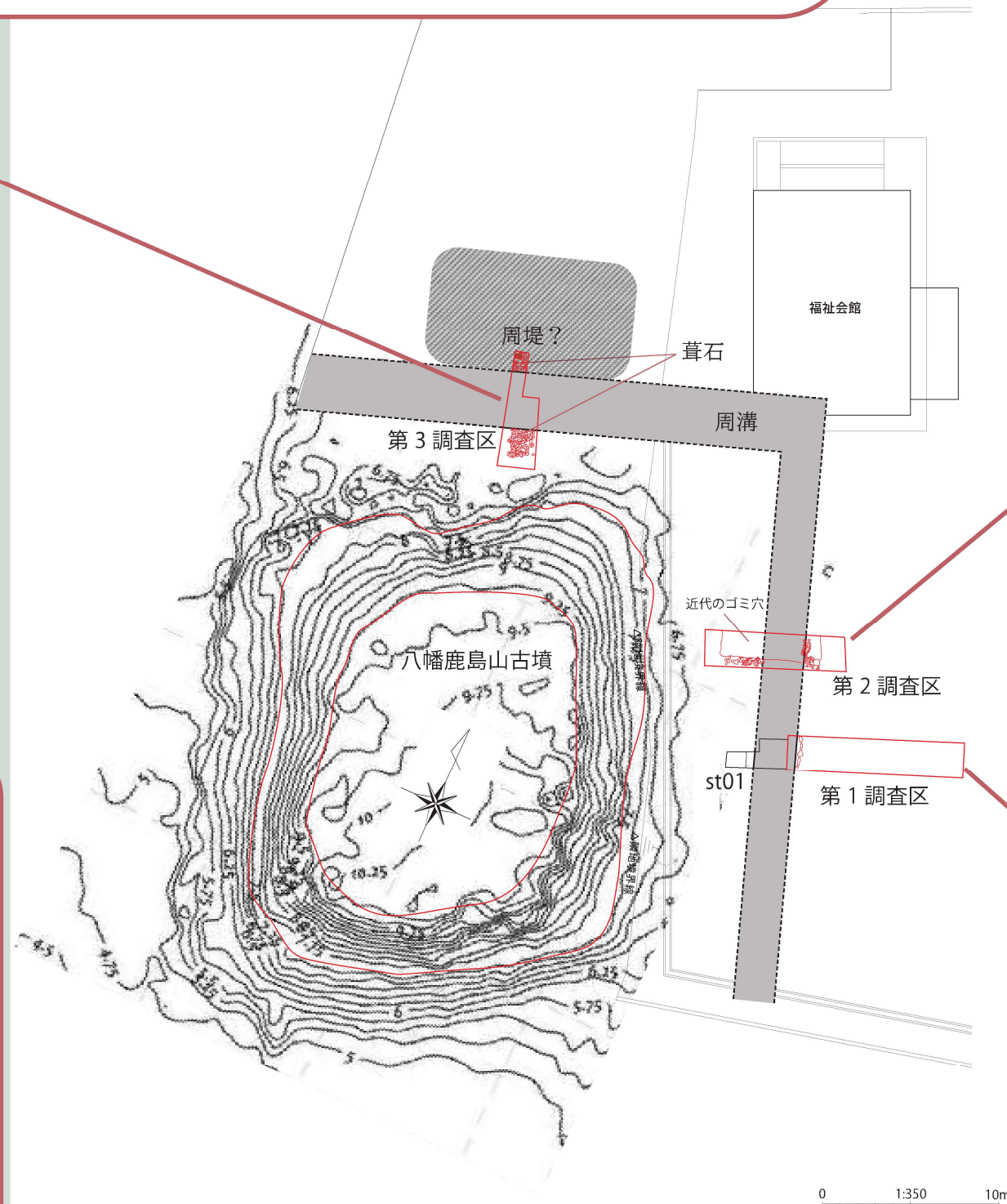
円筒埴輪の出土状況から、周堤に埴輪が並べられていた可能性が考えられます。



今回の調査の結果、八幡鹿島山古墳の形や大きさは次のように想定できます。

墳形：方墳
 墳丘の大きさ：一辺約 40m
 周溝の幅：3.6m
 築造時期：5 世紀中ごろ（古墳時代中期）

また、これに加えて周堤をもつ可能性があり、古墳全体で見るとさらに大きくなると考えられます。



調査区配置図 (S=1/350)

第2 調査区

この調査区では墳丘東側の周溝と葺石を検出しました。第1 調査区で検出したものと一直線でつながることが判明しており、四角い形をしていたと考えられます。



第1 調査区

この調査区では墳丘東側の周溝と葺石を検出しました。また、東側に向けて地山が傾斜していることも明らかになっており、古墳築造当時の旧地形を考えるうえで重要な成果と言えます。